

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

		学校整理番号		特17	
		学 校 名		青森県立黒石養護学校	
		対象障害種別		視覚・聴覚(知的)・肢体・病弱	

(1) 学校教育目標	子どもたち一人一人の能力や特性を生かし、自分の力で歩んでいける人間をはぐくむ				
(2) 現状と課題	本校は、黒石温湯地区の山間にある南黒地区で知的障害者を対象とする唯一の特別支援学校である。在籍数は小学部20名、中学部20名、高等部14名の計54名の小規模校である。通学方法は保護者送迎及び、路線バスを利用した自力通学、福祉サービスの送迎等である。 校舎は市道から山間の坂道の登ったところにあり、校地内移動には安全面から十分な配慮が必要である。また、校地周辺が土砂災害警戒区域に指定されている傾斜地に立地していることから、特に冬期間は通学路の除雪や登下校指導に職員が関わり、児童生徒の安全対策に細心の注意を払いながら教育活動を推進しているところである。 一方で、地域に開かれた学校を目指し、様々な交流活動に力を入れている。周辺の幼稚園、小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習のほか、地域資源(地域の自然環境や公共施設、人材等)を活用した体験型学習を積極的に実施している。 今年度は、移転前に温湯地区を中心に調べ学習や探究活動等を全学部で進めていく。そして、地域の魅力や楽しさを感じていく。また、毎年通学路線の温湯バス停や銀行にも児童生徒の美術作品を展示する他に地域の方々に幅広く鑑賞する機会として、11月に行われる黒石りんごまつりのブースなど幅広く展示を行っていくことで地域への更なる周知を図っていく。				
(3) 重点目標	1 学習指導の充実と改善(「生きる力」を育む授業づくりの推進) 2 道徳教育、生活指導・保健指導の充実 3 キャリア教育・進路指導の充実 4 開かれた学校づくりの推進 5 専門性の向上 6 働き方改革				
(4) 結果の公表	職員による自己評価及び保護者による学校の教育活動についてのアンケートの結果とその対応等について公表する。 ・職員、学校運営協議会委員、保護者に配付する。 ・職員には職員会議で、学校運営協議会委員には学校運営協議会で、保護者には参観日で説明する。 ・学校ホームページに掲載する。				

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実と改善 (「生きる力」を育む授業づくりの推進)	① 主体的・対話的で深い学びの追求(ＩＣＴ機器を活用した授業づくり・実践を含む) ② 小学部・中学部・高等部の12年間における一貫した系統性のある教育課程の編制 ③ 全校児童生徒の連帯感の醸成(小・中・高等部の合同体育の実施)	・県教委の事業を活用しながら外部講師を招いてICTの活用方法や効果的な指導に関する知見を得て、授業実践に取り組んでいる。 ・清掃活動や流れ作業などの学習を通して、生徒同士で話し合いをしながら気が付いた点、工夫する点、そして自分たちで気づきや理解を深められるよう授業改善に取り組んでいる。 ・全校児童生徒の連帯感の醸成を深めるため、合同体育に取り組んだ。縦割り3つのグループ編成し、年9回実施した。毎回、話し合いながら反省を生かし次年度に繋げていくこととした。	A	・ＩＣＴ、タブレットを使った学習。不安はあると思うが、長い時間かけて、上手に活用できる児童生徒にしてほしい。 ・小学部、中学部、高等部設置校の利点を活かし、学部間での交流も大切にしたい。 ・学習活動や地域の中での取り組みについては、とても充実していると感じている。	・研修等で学んだ事を生かし、校内におけるＩＣＴを活用した主体的、対話的で深い学びを目指した授業の充実を図る。 ・小学部から高等部まで、系統的な指導を通して、必要な資質・能力を子供たちに育むことができるよう、指導内容と評価の在り方について検討するとともに今年取り組んだ合同授業の反省を生かし、学部間での連携を更に深めていく。
2	道徳教育、生活指導・保健指導の充実	①礼儀正しく・思いやりにあふれる児童生徒の育成 ②事故等の未然防止に向けた校内体制と安全教育の推進 ③校内外の環境美化、食の指導と性指導、その他健康・衛生に係る指導の充実	・礼儀正しく・思いやりにあふれる児童生徒の育成として年度初めから掲げて取り組んだ。特に道徳教育では「相手のいいところを話そう」など、自己理解、他者理解に繋がれるよう児童生徒の育成に努め、称賛することで成長を促した。 ・交通安全教室では温湯駐在所の警察官にも毎年、協力を願い安全指導を行っている。また、非常時下校訓練やがけ崩れを想定した訓練も実施し、様々な災害に備えた。	A	・友達の良いところを発表する学習や、あいさつに重点を置いているところがとてもよい。いいところを言うのは難しいが、人の悪いところをいうのは簡単だと思う。小さい時から相手を褒めること、良いところを見る活動は、人間形成にとてもよいと思う。 ・事故の未然防止について、倒木や雪が多いが避難口の確保ができているか。避難口がない場合どのように対応するのか決めておく必要がある。	・年度初めに挨拶の大切さを掲げ、全校で継続していく。そして、道徳教育の充実も含め明るい学校づくりを目指していく。 ・次年度も性指導や食に対する指導についても思春期の大切な時期なので継続をしていく。 ・講師を招いて本校の立地状況を確認した。改めて、未曾有の災害がきた場合の緊急的な安全対策を考える機会となった。更に学校安全の内容を検討していく。
3	キャリア教育・進路指導の充実	①小・中・高の連携と一貫性のある系統的なキャリア教育・進路指導の推進 ②保護者、地域社会、関係機関等との連携による職業教育の充実	・進路だよりをタイムリーに発行することで、児童生徒及び保護者の情報提供に繋がり小学部の保護者からも具体的な質問が出るなど、高等部卒業後の生活に対する意識の向上に繋がっている。 ・校内実習及び黒養ワークトレーニング社の取組では、地元の子供の参加はなかったが引き続き関係機関との連携を行っている。	A	・進路だよりなど、早い段階からたくさん情報提供はとてもありがたい。今後も情報について発信を続けてほしい。 ・ワークトレーニング社について、積み上げてきた部分がある。黒石商業跡地にに移転することでプラスになる部分が多いので、継続して取り組んでほしい。	・小学部や中学部の保護者を対象とした進路講演会を継続して行うなど、高等部卒業後の進路についての情報発信に努める。 ・産業現場等における実習及び校内実習などを、今後も地域社会の協力を得ながら実施していく。
4	開かれた学校づくりの推進	①教育活動の情報発信 ②地域支援及び教育相談の充実 ③地域の方々、学校との交流活動(居住地校交流も含む)の推進 (地域の祭り「温湯丑湯祭」への参加) ④児童生徒・保護者・職員・関係者の意見を取り入れた新校舎計画の推進 オ 温湯・上山形・南中野地区との絆の深化、移転先(あけぼの町)についての探究活動	・学校公開及び「お山の学校であそぼう」を企画した。保護者、関係機関の方々が多数参加し、地域への周知と連携に繋がった。 ・学校間交流及び居住地校交流に当たって、概ね計画通り実施できた。 ・学校案内の充実では、黒石市主催のりんごまつりに展示することで児童生徒の作品を広くアピールした。 ・地域との交流では、小学部クリスマス会、ぶどう作業体験、中学部陶芸教室、灯籠作り、高等部は松の湯交流館での作品販売など各学部で充実した教育活動を実施した。	A	・地域への祭りや様々な行事で学校へ来るのが楽しみです。もし来年も祭りへ参加を考えていただければうれしく思っている。少人数でもよいので、ぜひ参加してもらいたい。 ・移転先でも地域の方々との交流については、学校から依頼されて断る人はあまりいないと思うので、地域の方々や色々な交流ができると活動が広がる。児童生徒にとって更に楽しい活動を設定してほしい。	・学校公開及び「お山の学校であそぼう」は、今年も参加人数が多く好評をいただいていることから、来年度も開催とし、本校としての地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を高める。 ・温湯地区を中心に調べ学習や探究活動を全学部で実施した。改めて地域の魅力や楽しさを実感することができた。今後も、校舎移転までの時間を大切にしながら、新たな発見や学びを求め、より充実した学習活動を展開していく。
5	専門性の向上	①校内研究・校内研修による実践的指導力の向上 ②校外研修への積極的参加	・校内研修を計画的に実施した。他校と連携し、外部講師を招いて直接指導や助言を受けることで実践的指導力の向上を図った。 ・研修報告会を企画し、県外研修に参加した職員から情報を共有した。	A	・今年度の取組が充実している。弘前第一養護学校と一緒に研修をやったのがよい。一緒にやることで業務の軽減につながるので、地域の小・中学校とも一緒に研修できるとよい。	・研修した内容をすぐに授業に生かし、児童生徒の指導に役立った。 ・他校と連携し協力してことで情報の共有の図り、児童生徒への指導の充実に繋げていく。
6	働き方改革	①衛生委員会等による職員の健康状態の把握 ②職員の年休取得目標の設定	・業務の効率化や精選に対する意識向上を図るために、月ごとに全教職員の時間外勤務時数の平均を伝えた。 ・毎月、会議等で健康の留意と計画的な年次取得について提示した。	A	・年次休暇の取得率が高くてよい。また、先生方の表情がとてもよく、学校全体の雰囲気が良いと感じる。 ・今後も残業時間を減らし、ワーク・ライフ・バランスに繋げて欲しい。	・引き続き、学校評価の内容を見直し、分かりやすいものにする。 ・今後も業務の効率化や精選に対する意識向上を図り、健康に留意するよう促していく。
(11) 総括	職員による学校評価では、全体としての評価点も昨年度と比べて平均値上回っている。学校運営・教育活動(教育課程)に関するそれぞれの項目が、昨年度に続けて上昇していることから、更に児童生徒一人一人の障がいの状態に応じた指導の充実に向けた、教職員の意識の高まりがあると捉えることができる。また、相対的に個人情報管理や経理に関する項目の評価は高く、日頃から教育公務員として服務規律を遵守した上で職務を遂行している現れと考えられる。 保護者による学校の教育活動についての評価では、昨年度同様に全体を通して高い評価となっている。このことから、学校の教育活動に対して保護者からは、概ね理解が得られていると考えられる。					